

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62199	地域観光振興事業 (観光イベント開催事業)		担当課	一之宮支所 基礎産業課	内線	3431
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	O	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6	商工費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2	観光費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1	観光振興費			D	その他事業
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	イベント参加者	対象者数	42,000 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・人々のところを魅了する通年型の観光地づくりを行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	・魅力あるイベント(臥龍桜・桜まつり、モンデウス・スペシャルホリデー)を開催する。 ・イベントを開催する飛騨一之宮イベント推進実行委員会に負担金を交付する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・臥龍桜・桜まつりの開催(4月12日～5月6日) ・モンデウス・スペシャルホリデーの開催(1月18日)					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	イベント回数	回	目標値	4	4	2
				実績値	4	4	2
	成果指標	算出根拠等	達成率(%)	100	100	100	
				100	100	100	
	成果指標	イベント参加者数	人	目標値	50,000	50,000	42,000
				実績値	22,100	42,800	54,000
	成果指標	算出根拠等	達成率(%)	44	86	129	
				44	86	129	
成果指標	算出根拠等	達成率(%)					
成果指標	算出根拠等	達成率(%)					
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	2,798	2,421	1,700	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			2,798	2,421	1,700	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	127	57	31	
	受益者	イベント参加者	(B)	22,100	42,800	54,000	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・臥龍桜やモンデウス飛騨位山スノーパークを活用したイベント開催しているため、市民及び観光客からのニーズが高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・臥龍桜・桜まつりについては地域振興や観光振興に有効であることから市が関与することは妥当である。 ・モンデウス・スペシャルホリデーについては、収益的な施設を利用したイベントであるため、見直しの必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・イベントの見直しによりイベント回数が減少したにもかかわらず、イベント参加者人数が増加している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・イベントの見直しによりコスト縮減等がある程度図られているが、モンデウス・スペシャルホリデーについては見直しが必要である。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・特色ある地域資源を積極的に活用したイベントを開催しており、観光振興や地域振興が図られている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・モンデウス・スペシャルホリデーに対する市の関わり方について整理する必要がある。 ・27年度以降、臥龍桜・桜まつりは一般予算で実施。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・26年度終了
----------------------	---------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・26年度終了
------------------	---------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94699	地域文化振興事業 (臥龍桜日本画大賞展開催事業)	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線
種別	1	一般会計	位置付け	特別予算の	3413
予算	会計	1	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6	D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・文化芸術に対する関心の向上を図るとともに、人材の発掘、育成をめざす。(小中学生等) ・市民(小中学生、一般)が優れた芸術文化(絵画)に触れられる機会を創出する。 ・臥龍桜の名にちなんだ全国公募展覧会を開催し、国指定天然記念物「臥龍桜」を全国に発信する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・小中学生部門を設け、審査会・展覧会を開催する。 ・全国の日本画家へ「臥龍桜日本画大賞展」への公募を行う。 ・市内のほか都市部(岐阜・東京)での展覧会の開催		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・第25回臥龍桜日本画大賞展を開催し、全国公募の結果、356名の応募があり、大賞1点、優秀賞2点、奨励賞5点、桜賞2点、入選60点、計70点を選出した。小中学生部門は、市内23校から630名の応募があり、大賞1点、優秀賞6点、奨励賞9点、入選51点、計67点を選出した。 ・展覧会は、高山展が16日間で623人、東京展が8日間で621人、岐阜展が6日間で1,357人、述べ2,601人の来場者があった。					
	指標名						
	活動指標	全国公募による日本画展の応募作品数	点	目標・実績	H24	H25	H26
	算出根拠等			目標値	400	400	400
				実績値	382	351	356
				達成率(%)	96	88	89
	活動指標	小中学生部門の応募者数	人	目標値	500	500	500
	算出根拠等			実績値	468	720	630
				達成率(%)	94	144	126
	活動指標	展覧会の一泊当たりの入場者数	人	目標値	100	100	100
	算出根拠等			実績値	165	72	87
				達成率(%)	165	72	87
				目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	8,694	7,825	9,641	
	受益者負担(使用料・負担金等)			2,077	1,906	1,957	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			6,617	5,919	7,684	
	一般財源		(A/B)	94	85	105	
コスト指標	受益者	全市民(4月1日現在)	(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・絵画(日本画)に興味を持ち、本展覧会を毎年楽しみにしている多くの市民がみえることから、ある程度のニーズがある。 ・小中学生部門では、毎年多数の応募があり、春には桜を描き、臥龍桜に出品する事が定着してきており、児童・生徒のニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・公募展として位置づけられ、継続されてきているので市が事業主体となっているが、今後の事業の在り方とともに運営の検討が必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・日本画展の応募者や展覧会の入場者数も順調に推移しており、概ね達成している。 ・臥龍桜の知名度も全国的に広がり、見学者も毎年多く来場している。 ・日本を代表する日本画家の審査による全国規模の大賞展は、市民に高尚な芸術文化に触れる場を提供している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・事業の一部を業者委託で行っており、効率化・省力化を図っている。 ・絵画出品者からは出品料を徴収しており、展覧会では誰にも優れた芸術文化に触れる機会を提供する上で受益者のコストは適正である。 ・賞金額や審査員報酬、展覧会開催手法等の更なるコスト削減に向けた検討が必要である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・20年以上継続している日本画大賞展は国内でも少なく、当大賞展入賞者が他の大賞展の上位入選しており、過去の入賞者が、現在の日本画壇で活躍している。若手の登壇ととしての人材発掘、育成の成果が上がっている。 ・小中学生部門においても、桜をテーマにした絵の募集で市内の小中学生が多数応募し、著名な日本画家の審査を受け、芸術文化の意識の高揚につながっている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・現在の事業実施の中でコスト削減に取り組んでいるが、今後の開催内容、運営方法を検討し、更なるコスト削減に向けた検討が必要である。 ・27年度は、一般予算で実施
--	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・26年度終了
----------------------	---------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・26年度終了
------------------	---------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94699	地域文化振興事業 (飛騨山文化交流館美術展覧会事業)	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3413
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6 文化振興費		D	その他事業	
根拠計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	・幅広く、文化芸術に触れる機会を創出する。 ・市所蔵作品の有効活用を図る。 ・日本画展による市所蔵作品や審査員の作品を鑑賞する機会を利用し、臥龍桜日本画大賞展の知名度アップを図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・第1回からの大賞作品や歴代審査員による優れた日本画作品の展覧会を開催する。 ・国指定天然記念物「臥龍桜」の満開時期に合わせて展覧会を開催する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	第1回～第24回までの大賞作品(25点 連作2作品含む)と高山市所蔵の歴代審査員が桜をモチーフとして描いた作品を一同に展示した展覧会を開催し、4月17日から5月6日までの20日間に延べ1,536名の来場者があった。地元画家の山腰曠氏がNHKの番組で取り上げられたため、同氏の作品も同時に展示したことにより、入場者増が図られた。																																																																																																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>単位</th> <th>目標・実績</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">活動指標</td> <td rowspan="2">展覧会の開催日数</td> <td>目標値</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>16</td> <td>19</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td>94</td> <td>112</td> <td>118</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果指標</td> <td rowspan="2">開催期間中の入場者数</td> <td>目標値</td> <td>650</td> <td>650</td> <td>650</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>483</td> <td>554</td> <td>1,536</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td>74</td> <td>85</td> <td>236</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td rowspan="2"></td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="5">補足事項</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">コスト面</td> <td colspan="2">事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)</td> <td>H24 決算額</td> <td>H25 決算額</td> <td>H26 決算額</td> </tr> <tr> <td colspan="2">歳出(千円)</td> <td>(A) 151</td> <td>177</td> <td>164</td> </tr> <tr> <td colspan="2">受益者負担(使用料・負担金等)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">その他特定財源(国・県支出金・起債等)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">一般財源</td> <td>151</td> <td>177</td> <td>164</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">コスト指標</td> <td colspan="2">受益者1件当たり(円)</td> <td>(A/B) 2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td colspan="2">受益者 全市民(4月1日現在)</td> <td>(B) 92,861</td> <td>92,097</td> <td>91,605</td> </tr> </tbody></table>					指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26	活動指標	展覧会の開催日数	目標値	17	17	17	実績値	16	19	20	算出根拠等		達成率(%)	94	112	118					成果指標	開催期間中の入場者数	目標値	650	650	650	実績値	483	554	1,536	算出根拠等		達成率(%)	74	85	236							目標値				実績値				算出根拠等		達成率(%)										目標値				実績値				算出根拠等		達成率(%)								補足事項					コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	歳出(千円)		(A) 151	177	164	受益者負担(使用料・負担金等)					その他特定財源(国・県支出金・起債等)					一般財源		151	177	164	コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 2	2	2	受益者 全市民(4月1日現在)		(B) 92,861	92,097	91,605
	指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26																																																																																																																															
	活動指標	展覧会の開催日数	目標値	17	17	17																																																																																																																															
			実績値	16	19	20																																																																																																																															
	算出根拠等		達成率(%)	94	112	118																																																																																																																															
	成果指標	開催期間中の入場者数	目標値	650	650	650																																																																																																																															
			実績値	483	554	1,536																																																																																																																															
	算出根拠等		達成率(%)	74	85	236																																																																																																																															
		目標値																																																																																																																																			
		実績値																																																																																																																																			
算出根拠等		達成率(%)																																																																																																																																			
		目標値																																																																																																																																			
		実績値																																																																																																																																			
算出根拠等		達成率(%)																																																																																																																																			
補足事項																																																																																																																																					
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額																																																																																																																																
	歳出(千円)		(A) 151	177	164																																																																																																																																
	受益者負担(使用料・負担金等)																																																																																																																																				
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)																																																																																																																																				
	一般財源		151	177	164																																																																																																																																
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 2	2	2																																																																																																																																
	受益者 全市民(4月1日現在)		(B) 92,861	92,097	91,605																																																																																																																																

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	全国的にも有名な画家の作品や日本画展大賞作品等の優れた作品に触れる機会を期待している市民も多く、ある程度のニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市所蔵の美術品の展覧会であることから、市が事業実施する必要性はある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	臥龍桜の開花時期に合わせた開催で、相乗効果が出ている。地元画家の作品も同時に展示したことにより、入場者数の増加につながった。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	受付事務・会場設営については、日本画大賞展実行委員会メンバーのボランティアの協力でコスト削減を図った。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	展覧会の開催により、日本画展に關係する所蔵作品や有名画家の作品に触れられ、市民の芸術文化への関心が高まる。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		8 / 10	→	100点換算 80 点

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)

展覧会入場者数は臥龍桜の開花状況によって異なることから、開花から満開に合わせた展覧会の開催期間の設定が難しい。27年度は、桜まつり実行委員会主催により開催

(参考) H26事業評価結果(二次評価)

26年度終了

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況

26年度終了

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	95199	地域スポーツ振興事業 (モンデウススキー大会開催事業)		担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3413
予算	会計	1	一般会計	特別 予算 の 位置 付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5	保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	体育総務費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民(ジュニア:7歳~15歳、シニア:40歳~)	対象者数	64,547 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・市民(ジュニア、シニア)の体力維持、体力増進を図る。 ・モンデウススキー場への誘客促進を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・モンデウススキー大会開催事業への助成 ・ジュニアスキー大会の開催 ・シニアスキー大会の開催		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	モンデウススキー大会実行委員会によって、2月8日にジュニアスキー大会(参加者251名)、2月18日にシニアスキー大会(参加者94名)が開催された。					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	ジュニアスキー大会参加者数	人	目標値	300	300	300
				実績値	217	165	251
	算出根拠等	ジュニアスキー大会参加者数	達成率(%)	72	55	84	
	活動指標	シニアスキー大会参加者数	人	目標値	150	150	150
				実績値	102	110	94
	算出根拠等	シニアスキー大会参加者数	達成率(%)	68	73	63	
	成果指標	ジュニアスキー大会参加者数前年度比率	%	目標値	100	100	100
				実績値	86	76	152
	算出根拠等	当年度参加者数/前年度参加者数	達成率(%)	86	76	152	
	成果指標	シニアスキー大会参加者数前年度比率	%	目標値	100	100	100
実績値				107	108	85	
算出根拠等	当年度参加者数/前年度参加者数	達成率(%)	107	108	85		
成果指標	モンデウススキー場年間利用者数	人	目標値	45,000	45,000	45,000	
			実績値	43,136	44,337	40,501	
算出根拠等	実績値/目標値	達成率(%)	96	99	90		
			目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
			算出根拠等				
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 800	700	600		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
一般財源		800	700	600			
受益者1件当たり(円)		(A/B) 12	11	9			
コスト 指標	受益者	市民(ジュニア:7歳~15歳、シニア:40歳~)	(B) 64,194	64,228	64,351		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・スキー人口減少の中においては、安定的な参加者があることから、ある程度のニーズがあると判断できる。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・地域振興計画に位置付けされており、市民の健康づくりとモンデウススキー場への誘客促進に結び付いたための補助金は妥当であるが、今後の組織体制等の検討が必要である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・参加者は例年安定的にあるので、概ね達成されている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・実行委員会の自主運営に向けて、市に頼らない運営方法、改善を検討している。 ・スポンサーや協賛金を募り自主財源の確保に取り組んでいる。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・地域振興計画に位置付けされており、市民の生涯スポーツの推進とモンデウススキー場への誘客に結び付き、スポーツ交流促進の効果がある。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	5 / 10	→	100点換算	50 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題 (FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・実行委員会による自主運営の方法と組織体制の確立 ・新たなスポンサーや協賛金の確保等で負担金の減額を図る。
--	--

(参考) H26事業評価結果 (二次評価)	26年度終了
-----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	31399	地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3422
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	3 民生費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 社会福祉費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3 老人福祉費		D	その他事業	
根拠計画	高山市老人福祉計画・第6期介護保険事業計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	対象者数	9,490 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	地域を基盤とした老後の社会活動の円滑な展開まちづくへの高齢者の参画の促進		
概要	事業の実施手法(手段)	高齢社会を支えるうえで大きな役割を担っている老人クラブに対し、高齢者の生きがいと健康づくり、福祉の向上のために助成することにより、各種活動の育成、支援を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	市連合長寿会に対する支援 ・会員及び各区、「単位クラブ」に対する活動助成 ・事務局人権費に対する助成					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	連合長寿会会員数	人	目標値	10,000	10,000	10,000
				実績値	9,584	9,677	9,751
	算出根拠等	達成率(%)	96	97	98		
	活動指標	連合長寿会単位老人クラブ数	クラブ	目標値	143	139	138
				実績値	139	138	137
	算出根拠等	達成率(%)	97	99	99		
	活動指標	連合長寿会加入率	%	目標値	40	40	40
				実績値	38	37	37
	算出根拠等	連合長寿会加入者数/65歳以上人口	達成率(%)	95	93	93	
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等	達成率(%)					
				目標値			
			実績値				
算出根拠等	達成率(%)						
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 420	420	420		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		150	149	149		
	一般財源		270	271	271		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 755	727	732		
	受益者		一之宮地区会員数(4月1日現在) (B)	556	578	574	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	高齢者が住み慣れた地域で、他の高齢者や住民と交流を持ちながら健康で日常生活を送るための活動として、市民の関心は高く、地域活動にも根付いているが、高齢者のニーズの多様化により加入率は減少傾向にある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市は、老人福祉法(第十条の三第一項)の規定により、老人クラブなどの老人福祉を増進する目的とする事業を行う者の活動の連携及び調整、地域の実情に応じた体制整備に努めなければならないため。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	老人クラブ数及び加入率は、減少傾向であるため、役員等により、組織や活動の見直しに取り組んでいる。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	長寿会活動に参加することにより、高齢者の健康増進と閉じこもり予防が図れた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・市全体として新規加入者の割合が減少しており、連合長寿会会員加入率と単位クラブの減少が課題となっている。健康で生きがいを持ちながら生活するために、地域とのつながりを深めながら、今後一層の充実と活発な取り組みが必要である。
--	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	61199	地域商工振興事業 (位山交流促進センター管理事業)	担当課	一之宮支所 基礎産業課	内線 3431
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6 商工費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1 商工費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 商工振興費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	施設利用者	対象者数	63,000 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	・地域の特色を活かした魅力ある商業の振興を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・道の駅がもつ販売機能の強化と活用を行う。 ・施設の管理は、(一財)位山ふれあいの里に委託する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・道の駅の附帯施設として位山交流促進センターの管理運営を実施する。					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	施設営業日数	日	目標値	325	325	325
				実績値	325	324	324
		算出根拠等		達成率(%)	100	100	100
	成果指標	施設利用者数	人	目標値	63,000	63,000	63,000
				実績値	60,119	65,459	58,741
		算出根拠等		達成率(%)	95	104	93
				目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	補足事項						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	8,000	8,000	8,000	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			8,000	8,000	8,000	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	133	122	136	
	受益者	施設利用者数	(B)	60,119	65,459	58,741	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・冬季にはニーズが高く、それ以外は低くなっているが全体としてある程度ニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・道の駅の附帯施設として市が適正に管理する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・施設利用者は減少しているものの、目標達成率が高いことから目的とする成果がある程度あがっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・経営改善計画に基づき、人件費等の削減が行われている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・グリーンツーリズムや各種イベント等で当該施設を利用しているものの、冬季以外にも集客が向上する取組が必要である。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 10	→	100点換算	60 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・経営改善計画に基づいた施設管理を着実に行うとともに、冬季以外にも集客が向上する取組が必要である。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・26年度終了
----------------------	---------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・26年度終了
------------------	---------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	72199	地域道路橋りょう管理振興事業 (市道未登記用地測量事業)	担当課	一之宮支所 基礎産業課	内線 3441	
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7 土木費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 道路橋りょう費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 道路橋りょう総務費			D	その他事業
根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どのような状態にしたいのか(意図)	・未登記路線を整理し、市道の適正な管理を行う。		
概要	事業の実手法(手段)	・市道未登記箇所の確定測量を行い登記関係書類を作成し、所有者からの寄付により道路用地として高山市へ所有権移転登記を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・未登記路線の確定測量及び分筆測量						
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	未登記路線測量等調査筆数	筆	目標値	1	1	1	
				実績値	1	1	0	
	成果指標	算出根拠等	筆	達成率(%)	100	100	0	
				未登記完了筆数(延べ数)	目標値	69	69	69
	成果指標	算出根拠等	筆	実績値	46	47	47	
				達成率(%)	67	68	68	
	成果指標	算出根拠等	筆	目標値				
				実績値				
	成果指標	算出根拠等	筆	達成率(%)				
				目標値				
	成果指標	算出根拠等	筆	実績値				
				達成率(%)				
	成果指標	算出根拠等	筆	目標値				
実績値								
成果指標	算出根拠等	筆	達成率(%)					
			目標値					
成果指標	算出根拠等	筆	実績値					
			達成率(%)					
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額			
	歳出(千円)		(A)	415	489	0		
	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
	一般財源			415	489	0		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A./B)	4	5	0		
	受益者 全市民(4月1日現在)		(B)	92,861	92,097	91,605		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・未登記路線を整理することによって、市道の適正な管理が行えることからニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市が管理すべき施設のため、事業主体を見直す余地はない。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげている	B	・相続人を確定できないものや寄付に対して同意されない等処理困難な路線が残っている。 ・寄付に対して同意が得られるよう引き続き交渉が必要である。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・事業コストは、必要最小限の経費で取り組んでおり適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・生活に身近な市道を適正に管理するためには、未登記路線の解消については積極的に取り組むべき事業である。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・未登記路線が早期に解消できるよう、引き続き積極的に取り組んでいく必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・26年度終了
----------------------	---------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・26年度終了
------------------	---------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	74599	地域景観保全振興事業 (桜の里づくり)		担当課	一之宮支所 基礎産業課	内線	3431	
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	7	土木費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	都市計画費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	5	景観保全総務費		D	その他事業		
	根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	桜を基調とする地域個性の創出として桜の舞地域づくりを行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	桜を適正に管理するために補植、防除及び施肥を実施する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	桜の防除・施肥の実施 ・しだれ桜の整姿作業の実施					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	桜の維持管理本数	本	目標値	1,000	1,000	1,000
				実績値	1,000	1,000	1,000
	成果指標	算出根拠等	人	達成率(%)	100	100	100
				目標値	40,000	40,000	40,000
	成果指標	臥龍桜・桜まつり入場者数	人	実績値	20,000	38,000	53,000
				達成率(%)	50	95	133
	成果指標	算出根拠等		目標値			
				実績値			
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
	成果指標	算出根拠等		実績値			
				達成率(%)			
	成果指標	算出根拠等		目標値			
実績値							
成果指標	算出根拠等		達成率(%)				
			目標値				
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 2,333	4,688	3,933		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		2,333	4,688	3,933		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 25	51	43		
	受益者 全市民(4月1日現在)		(B) 92,861	92,097	91,605		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・臥龍桜を中心に桜が舞う美しい農村風景を楽しむ観光客などが訪れていることからニーズが高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・桜の管理としては、市では防除・施肥(子桜)を実施し、桜を守る会では、テング葉病の除去や支障木の伐採を実施している。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・常泉寺川沿線のしだれ桜の整姿作業を実施したことにより、良質な景観を回復できた。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・事業コストは、必要最小限の経費で取り組んでおり適正である。 ・しだれ桜の整姿作業は計画的に実施している。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・桜の里づくりによる景観保全・地域振興並びに観光振興を図ることがある程度できた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・桜を適正に管理するため防除、施肥及び整姿作業を実施する必要がある。
---------------------------------------	------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・26年度終了
----------------------	---------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・26年度終了
------------------	---------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定



平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94199	地域社会教育推進事業 (花いっぱい運動事業)	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3413
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 社会教育総務費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	一之宮地域の住民	対象者数	2,600 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域住民が花壇づくりに参加することで、地域コミュニティの醸成を図る。 ・花づくりを通して、美しい地域づくりに住民みんなで取り組み、地域の絆を強めるとともに豊かな心を育成する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・一之宮地区町内会へ花苗・肥料等の配付を行う。 ・一之宮地区子ども会へ花苗・肥料等の配付を行う。 ・一之宮地区の学校PTA等へ花苗・肥料等の配付を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 面	H26の実績	一之宮地区の町内会(社教・子ども会)等の行う花いっぱい運動のため花苗・肥料等を配付。					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動 指標	花苗配付数	株	目標値	13,000	15,000	15,000
		実績値		12,900	13,500	9,300	
	算出根拠等			達成率(%)	99	90	62
	成果 指標	花壇箇所数	箇所	目標値	37	37	37
		実績値		37	37	28	
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	76
	成果 指標	花壇コンクール応募数	団体	目標値	33	33	0
		実績値		33	33	0	
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	
	算出根拠等			達成率(%)			
	算出根拠等			達成率(%)			
	算出根拠等			達成率(%)			
	算出根拠等			達成率(%)			
補足事項							
コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 417	423	364		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		417	423	364		
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 159	161	140		
	受益者	一之宮地域住民(4月1日現在)	(B) 2,625	2,623	2,592		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・花いっぱい運動事業は、市民活動の一環として地域に定着しており、町内会や子ども会からのニーズがある。	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・花いっぱい運動事業は、市長公約された「地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業の予算確保」に当たり、市民憲章推進にもつながる事業であり、また高山市全域で行われている事業である。	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・地域の班および子ども会など小規模単位のコミュニティの活発化になっている。	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・22年度実施時、20種類あった花品種・色を23年度から10種類にしようとした。また、花苗納品業者は障害者支援施設吉城山ゆり園であり、障害者福祉の向上に資するとともに、納入価格も民間業者より安価である。	
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・地域振興計画に位置付けられ、市長公約にもある「地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業」の面で効果があった。	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		9 / 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入) ・地域振興特別予算終了後の支所地域の花いっぱい運動がアンバランスにならないよう、新たな予算の枠組みなど検討が必要

(参考) H26事業評価結果 (二次評価)	26年度終了
-----------------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94799	地域文化財保存振興事業 (地域伝統芸能保存会助成事業)	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3413
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7 文化財費		D	その他事業	
	根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	一之宮地域の小学5年生～中学3年生の男子	対象者数	73 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域の伝統芸能(蘭鶏楽)の保存と伝承を図る。		
概要	事業の実手法(手段)	地域伝統芸能保存会活動への助成		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	一之宮子ども会蘭鶏楽伝承会(5月2日例祭参加)の活動費用に高山市文化財等保護事業補助金を助成した。					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	伝承回数(練習および例祭)	回	目標値	5	5	5
				実績値	5	5	5
	成果指標	一之宮地域の子ども参加率	%	目標値	70	70	75
				実績値	65	65	75
	算出根拠等	参加者数/一之宮小5～中3男子	目標値	93	93	100	
			実績値				
	算出根拠等		目標値				
			実績値				
	算出根拠等		目標値				
			実績値				
	算出根拠等		目標値				
			実績値				
	算出根拠等		目標値				
実績値							
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	45	45	45	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			45	45	45	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	17	17	17	
	受益者 一之宮地域住民(4月1日現在)		(B)	2,625	2,623	2,592	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化などの経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・小学校の時から中学生まで5年間、蘭鶏楽を習うことで地域の伝統芸能が次世代に継承され、地域文化の保護育成になっている。 ・一之宮地域では多くの町民が祭りに関わっており、地域の文化としてかたくなに伝統行事が守られている。市内外からの見学者も多くニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・無形文化財の保護育成のため高山市文化財等保護事業補助金として補助することが妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・子ども会の活動として、地域の伝統行事に参加する意識が高まり、成果は十分達成されている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・少額の経費(補助)で、伝統芸能を保存する目的が達成されているので、特に課題はない。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・地域振興計画に位置付けられているとともに、伝統芸能を守り継承する活動として市長公約の達成に結び付いている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	10 / 10	→	100点換算	100 点
----	---------	---	--------	-------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	27年度以降は、一般予算において実施
---------------------------------------	--------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94799	地域文化財保存振興事業 (国指定天然記念物「臥龍桜」維持管理事業)		担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3413
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	文化財費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	対象者数	90,938 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・国指定天然記念物「臥龍桜」の保護育成を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・岐阜大学林教授等による、国指定天然記念物「臥龍桜」の保護育成指導 ・臥龍桜周辺の草刈、施肥の実施		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	国指定天然記念物「臥龍桜」の保護育成のため学識経験者の指導を受け、草刈・施肥を行った。					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	岐阜大学林教授等による現地診断回数	回	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	1
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	活動指標	草刈・施肥の回数	回	目標値	2	2	2
				実績値	3	2	1
				算出根拠等	達成率(%)	150	100
	成果指標	臥龍桜見学者数	人	目標値	40,000	40,000	40,000
				実績値	30,000	39,000	55,000
				算出根拠等	達成率(%)	75	98
	成果指標			目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
	成果指標			目標値			
実績値							
算出根拠等				達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	423	393	251	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			423	393	251	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	5	4	3	
	受益者 全市民(4月1日現在)		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・臥龍桜の開花時には市民のみならず、全国各地から多くの観光客が訪れ桜を見物することから、保護に対するニーズは非常に高い。 ・推定樹齢1100年の桜を後世に残す事は、市民の財産としてのニーズが非常に高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市所有の国指定天然記念物を維持管理することは所有者の義務である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・保護事業により桜の樹勢も順調であり、毎年素晴らしい開花を見ることが出来ているので、成果は十分に上がっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・通常の維持管理は市で行い、大規模な保護事業は国庫補助事業で行うよう文化庁から指導を受けている。23年度は支柱交換を国庫補助事業で行い財政負担を軽減した。 ・桜の樹勢維持のため必要最小限の経費で事業を実施している。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・地域振興計画に位置付けられているとともに、市長公約の「高山固有の美しさを守り続け、歴史的、社会的に価値のある文化財などの資源を保存活用する」を達成する効果が上がっている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	10 / 10	→	100点換算	100 点
----	---------	---	--------	-------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	27年度以降は、一般予算において実施
---------------------------------------	--------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	94799	地域文化財保存振興事業 (位山道維持管理事業)	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3413
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7 文化財費		D	その他事業	
	根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・奈良時代からの官道遺構「位山道」(市指定文化財)の維持管理を図る。 ・高山固有の文化を後世に継承する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・位山道の維持管理(草刈)の実施 ・位山道の修繕		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	位山道の草刈を実施。 位山道橋石積修繕。					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	草刈・石積修繕回数	回	目標値	3	3	3
				実績値	3	2	1
	成果指標	算出根拠等	回	達成率(%)	100	67	33
				目標値	3	3	3
	イベント開催回数	回	実績値	3	3	2	
			達成率(%)	100	100	67	
	算出根拠等		目標値				
			実績値				
	算出根拠等		達成率(%)				
			目標値				
	算出根拠等		実績値				
			達成率(%)				
	算出根拠等		目標値				
実績値							
算出根拠等		達成率(%)					
		目標値					
算出根拠等		実績値					
		達成率(%)					
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 324	65	152		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		324	65	152		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 3	1	2		
	受益者 全市民(4月1日現在)		(B) 92,861	92,097	91,605		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	街道(歴史)ブームやウォーキングなどの健康志向により、歴史ある街道を訪れる市民が増えている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	文化財などの資源を守り継承するためにも、市が事業実施する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	街道ウォーキングイベントの開催も定着し、文化の継承が図られている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	少人数・短時間で事業実施を行っているため、コスト縮減は図られている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	官道を散策することは、歴史探訪や健康意識への市民ニーズに対応しており、事業実施はある程度効果がある。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	位山道(東山道飛騨支路)として都から飛騨へと文化が伝わった歴史ある道をより多くの人々に知ってもらう取り組みが必要である。 27年度以降は、一般予算において実施
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	21899	地域自然環境保全事業 (「源流の星」ほたるの舞う里づくり事業)	担当課	一之宮支所 基盤産業課	内線	3431
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	18 環境政策費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	源流地域の恵まれた自然を守り、地域住民の愛郷精神を育む。		
概要	事業の実手法(手段)	・ホテルの生息しやすい環境整備や生息調査を実施する。 ・生息調査地点には「蛍の舞う町」という看板を設置し、地域に啓発する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	ホテルの生息調査 ホテルの環境整備					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	ホテルの環境整備箇所数	箇所	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	1
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	成果指標	ホテルの個体確認数	匹	目標値	300	400	400
				実績値	156	118	296
				算出根拠等	達成率(%)	52	30
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
実績値							
算出根拠等				達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	289	305	286	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			289	305	286	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	3	3	3	
	受益者 全市民(4月1日現在)		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・ホテルが生息できるような環境整備を実施することにより、地域に残る原風景の保存や自然環境保護に対する意識の向上が図られることからある程度ニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・ホテルが生息できるような環境整備(ハード整備)が整うまでは、市が実施することは妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・ホテルが生息できるような環境整備は着実に実施され、個体確認数が増加していることから目的とする成果がある程度あがっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・本事業は地元のNPO法人に委託しており、必要最小限の経費で取り組んでいるため、適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	B	・身近に生息するホテルを通して、郷土愛や自然保護に対する意識高揚が図れることからある程度効果があつた。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・ホテルの個体数を更に増加させ、地域にとって身近に感じような取り組みが必要である。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	62199	地域観光振興事業 (清酒臥龍桜醸造助成事業)		担当課	一之宮支所 基礎産業課	内線	3431
予算	会計	1	一般会計	特別 予算 の 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	観光振興費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	・地域の特産品として清酒臥龍桜を利用した観光振興を図る。 ・臥龍桜日本画大賞展の知名度アップを図る。		
概要	事業の実手法(手段)	・清酒臥龍桜を一之宮地域のみで限定販売する。 ・清酒ラベルに日本画大賞展審査員の原画を採用する。 ・清酒臥龍桜を醸造する飛騨一之宮酒販売組合に補助金を交付する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	清酒臥龍桜のラベル原画代 臥龍桜・桜まつり会場における販売啓発活動					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	清酒臥龍桜出荷本数	本	目標値	2,000	2,000	2,000
				実績値	1,700	1,700	1,700
	算出根拠等			達成率(%)	85	85	85
	成果指標	清酒臥龍桜販売本数	本	目標値	2,000	2,000	2,000
				実績値	1,500	1,600	1,500
	算出根拠等			達成率(%)	75	80	75
	算出根拠等			達成率(%)			
	算出根拠等			達成率(%)			
算出根拠等			達成率(%)				
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	150	150	150	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			150	150	150	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	2	2	2	
	受益者 全市民(4月1日現在)		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・地元限定販売の特産品としてある程度ニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・臥龍桜日本画大賞展の審査員の商品ラベルを採用していることや位山の湧水取水して醸造していることなど、地域の観光宣伝に有効であることから市が関与することについては妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・販売本数は横ばいであるものの、ある程度成果があがっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・事業コストは必要最小限の経費で取り組んでいるため、適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・臥龍桜や位山の湧水(湧水)の宣伝効果もあり情報発信としては効果的である。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・新たな地域イベントで販売するなど販路を拡大する必要がある。
--	--------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	74699	地域公園管理振興事業 (地域公園用地購入事業)		担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3412
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	都市計画費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6	公園管理費		D	その他事業	
根拠計画							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	一之宮地域の住民	対象者数	2,600 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	土地開発基金保有地(公園用地)の買戻しをする。		
概要	事業の実施手法(手段)	地区公園(ふれあい広場)の一部を一般予算により買戻す		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	旧宮村時代に公園用地(ふれあい広場)として土地開発基金で取得した土地の一部(1,250㎡)を買戻した。					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	取得面積	㎡	目標値			5,624
		算出根拠等		実績値			1,250
	成果指標	公園用地に占める市所有地の割合	%	目標値			100
		算出根拠等		実績値			41
		買戻し面積/全体の面積		目標値			
		算出根拠等		実績値			41
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
	補足事項						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	14,915	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源					14,915	
コスト 指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	0	0	5,754		
	受益者	(B)	2,625	2,623	2,592		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	グラウンドゴルフの練習場として利用されているが、利用者はあまり多くない。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市が管理すべき施設のため、事業主体を見直す余地はない。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	高齢者の健康づくりのため、必要な施設である。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	土地の買戻しをすることにより、市が将来にわたり負担すべき借入利息の縮減が図られる。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	災害時における仮設住宅の建設用地として、引き続き市が所有する必要がある。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	地域振興特別予算は終了したが、残った公園用地については、今後、一般予算にて買戻しが必要
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
-------------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	20999	地域づくり振興事業 (地域振興助成事業)	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線 3411
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1 総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	9 企画費		O	D その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	一之宮地域の住民	対象者数	2,600 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	・地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進するため、住民自らが主体となって事業に取り組むことにより、地域の活性化と地域コミュニティの醸成を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・地域住民が自主的に取り組む、公共性の高い事業に対する助成		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・飛騨高山アンテナショップ協議会に対する運営補助金 (地域団体に対する助成はまちづくり協議会補助金へ統合)					
	指標名 単位 目標・実績 H24 H25 H26						
	活動指標	補助金交付申請件数	件	目標値	10	10	1
				実績値	11	8	1
				算出根拠等	達成率(%)	110	80
	活動指標	補助金交付申請額	千円	目標値	3,500	1,500	500
				実績値	3,303	1,410	500
				算出根拠等	交付申請額	達成率(%)	94
	成果指標	補助金交付実績件数	件	目標値	10	10	1
				実績値	11	8	1
				算出根拠等	交付実績件数	達成率(%)	110
	成果指標	補助金交付実績率	%	目標値	90	90	100
				実績値	94	94	100
				算出根拠等	交付実績額/予算額	達成率(%)	104
	補足事項	目標値	実績値	達成率(%)			
達成率(%)							
達成率(%)							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 3,303	1,410	500		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		3,303	1,410	500		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 1,258	538	193		
	受益者	一之宮地域住民 (B)	2,625	2,623	2,592		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・事業自体に対する市民のニーズはある程度高くなっている。地域の自主的な地域振興活動の補助であり、市民ニーズにもマッチしている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりの推進と安全安心なまちづくりのための重要な事業である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・住民自体が主体的・自主的に取り組む事業であり、活動実施によって地域の活性化やコミュニティの醸成が図られている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・補助金交付申請時に見積書を添付してもらうことで、適正な審査をしているため、執行方法等は効率的である。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・地域の個性あるまちづくりや住民によるコミュニティ醸成が図られているところから、市の政策、施策に効果をもたらしている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・住民の自主的な取組みをさらに進めるため、事業PRを強化しながら住民の主体性の向上を図る必要がある。
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定



平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	20999	地域づくり振興事業 (地域要望対応事業)	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線 3411
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1 総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	9 企画費		O	D その他事業
根拠計画	地域振興計画				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	一之宮地域住民	対象者数	2,600 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・市有施設の修繕等、地域からの要望に即座に対応する。		
概要	事業の実手法(手段)	・市道、水路など公共施設の軽微な修繕		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	地域から12件の要望があり、市道の修繕工事を行った。支所長権限で即座に対応できることから、地域の安全性が迅速に確保された。					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	要望対応件数	件	目標値	10	10	10
		算出根拠等	算出根拠等	実績値	10	13	12
		算出根拠等	算出根拠等	達成率(%)	100	130	120
	活動指標	事業実績金額	千円	目標値	8,500	7,700	9,900
		算出根拠等	算出根拠等	実績値	5,669	7,225	8,346
		算出根拠等	算出根拠等	達成率(%)	67	94	84
	成果指標	事業実績率	%	目標値	90	90	90
		算出根拠等	算出根拠等	実績値	67	94	84
		算出根拠等	算出根拠等	達成率(%)	74	104	93
				目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
				目標値			
			実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 5,669	7,225	8,346		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		5,669	7,225	8,346		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 2,160	2,864	3,220		
	受益者		(B) 一之宮地域住民	2,625	2,523	2,592	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・市有施設に関する地域要望に支所長権限で即座に対応できることから、市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設(特に道路等)の修繕は軽微なものが少なく、住民では対応できないことから、市が実施する必要性が高い。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげている	B	・地域の要望に即座に対応できるため、活動内容は有効性が高い。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・市事業として設計管理のもとに実施しているため、コスト的に問題はない。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・地域の要望に即座に対応できるため、住民満足度も高く、市の政策、施策に効果をもたらしている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)

・平成26年度は、地域振興特別予算の最終年度ということもあり、例年に比べ、予算も多く配分されていた。そのため、予算の執行率は低くなったが、実績としては例年より増加している。

(参考) H26事業評価結果 (二次評価)	26年度終了
-----------------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了	H27完了予定

平成27年度事業評価シート(地域振興特別予算) ※26年度予算事業による

事業名	74699	土地借上料		担当課	一之宮支所		内線	
	種別						3431	
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	7	土木費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	都市計画費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	6	公園管理費		D	その他事業		
根拠計画								

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	各施設利用者	対象者数	40,000 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・施設用地の借上げ		
概要	事業の実手法(手段)	・一之宮地域の公共施設を維持運営するため、民間から借り上げている土地の中で高山市の借上げ基準を上回る物件についての借上げ		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・臥龍公園用地(一部)借上げ					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	用地の借上面積	算出根拠等	㎡	目標値	478	478	470
				実績値	478	478	470
				達成率(%)	100	100	100
	臥龍桜・桜まつり来場者数	算出根拠等	人	目標値	40,000	40,000	40,000
				実績値	20,000	38,000	53,000
				達成率(%)	50	95	133
		算出根拠等		目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
		算出根拠等		目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
		算出根拠等		目標値			
実績値							
達成率(%)							
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 447	447	397		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		447	447	397		
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 7	5	7		
	受益者	施設利用者数	(B) 63,136	82,337	53,000		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・臥龍公園の施設用地であるため、ある程度ニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・公園として市が管理する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・臥龍公園など集客に必要な施設であるため、ある程度効果があがっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・市の基準単価になるよう一部見直しを行い、コスト縮減がある程度図られている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	B	・観光振興などある程度効果があつた。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 10	→	100点換算	60 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・市の基準に近づきよう単価交渉等を継続する必要がある。
---------------------------------------	-----------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	26年度終了
----------------------	--------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	26年度終了
------------------	--------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了	H27完了予定